

# SEQUIMINI ME

セ ク イ ミ ニ メ

No.49  
*WINTER 2015*



桃山学院大学チャペル・ニュース

## 目 次

巻頭言 「クリスマス：優しさのプレゼント」 チャプレン 松平 功 ……	1
キリスト教講演会	
「桜井淑敏氏の講演会を受講させて」 社会学部准教授 篠原 千佳 ……	3
キリスト教講演会の感想 ……	4
【経営学部4回生 杉山 貴大】、【経営学部3回生 松浦菜津子】	
【経済学部3回生 アルカスサムエル】、【国際教養学部3回生 藤原 茉央】	
【社会学部3回生 定野 夏歩】、【社会学部3回生 溝内名津美】	
【社会学部3回生 周 倩嫻】、【社会学部2回生 金 知秀】	
【社会学部1回生 中川 未裕】、【国際教養学部1回生 南澤 柊】	
先輩からの便り	
「人の出会いに生かされる」 81E 原 徹 ……	10
(現：学校法人桃山学院 経営企画部長兼財務部長)	
キリスト教センターからのお知らせ ……	12
～ 桃学大 SCA (学生キリスト者会) からのお願いと感謝 ～ ……	12
桃学大チャペル附属聖歌隊で活躍しよう!! ……	13

## 聖書の言葉

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。」

(新約聖書・新共同訳、ルカによる福音書2：8～15)



## 「クリスマス：優しさのプレゼント」

チャプレン（大学付牧師） 松平 功

～わたしが正しいとされることを望む人々が喜び歌い、喜び祝い絶えることなく唱えますように「主をあがめよ 御自分の僕の平和を望む方を」と。～（詩編 37 編 27 節）

みなさん、クリスマスおめでとうございます。

この間、古本屋に行ったら百田尚樹さんの小説が沢山並んでいるのに気づきました。彼の著作物は『永遠のゼロ』や『モンスター』など、映画化されているほど有名です。一冊ぐらいいは読んでおきたいと思って物色したのですが、どの小説も分厚いものばかりで迷っていたら、一冊だけとても薄い小説があったので中身も何も確認せず購入しました。題名が『輝く夜』という五つの短編小説の入った本でした。はからずも全てクリスマスにちなんだお話しで、この季節にぴったりでした。中でも『魔法の万年筆』というお話が、とても心に残りました。

それは、クリスマス・イブの日に会社を解雇された女性の物語です。首になる前に、自分の弟の経営する会社が倒産しそうだと、自分が今までコツコツと貯めてきたお金を全部貸してあげていました。次の仕事を早く見つけないと生活できなくなります。周りの人々がクリスマスで幸せそうに見えるのとは対照的に、彼女の心はこれからどうやって暮らして行けるかという不安でいっぱいでした。そんな時に、道端で物乞いしている、おじいさんを見かけます。彼女は可哀そうに思いハンバーガー

セットと五百円玉をあげるのです。そうすると、物乞いのおじいさんは、「魔法の万年筆」を彼女に差し出します。彼は、それで願い事を書くこと「3つだけ願いがかなう」ことを告げて去って行きます。彼女はレストランに入った後、バカバカしいと思いながら「おいしいケーキが食べたい」と紙に書きます。すると、すぐにウェーターが「当店からのクリスマス・サービスをどうぞ」と言って、ケーキを置いていきました。少々びっくりした彼女は、半信半疑ながら次の願い事を考えます。でも彼女は自分のことよりも「弟の会社が立ち直れますように」と書くのです。

しばらくすると、弟から電話があり奇跡的に会社が立ち直ったことと、同時に大きな仕事が入ったことを告げるのです。そして、借りていたお金は利子をつけて返すからと言われます。驚いた彼女は、今度は本気で願い事を考えます。しかし願い事はあと一度だけしかかきません。色々考えるのですが、他人が不幸になるような願い事とか、自分だけがお金持ちになるようなお願いは、浅ましいのでやめました。また、彼女は左耳が聞こえなかったもので、聞こえるようにしてもらおうかとも思ったのですが、その時、自分のアパートの隣に住んでいる男性のことを思い出します。

隣に住んでいる男性とは、子供の時に自動車事故で両親や姉を亡くして、児童養護施設で苦勞して育った人でした。そして、彼女より七つも年下だったので、自分の弟のように可愛がっていた人です。おつきあいはしていなかったのですが好きな男性でした。彼は俳優になるために上京し、働きながら役者を目指していました。でも、中々うまくいなくて、今年を最後と考えて、それで芽が出なかったら、地元に戻ると言っていました。彼女にとって、それはとてもショックなことでした。そこで、恵まれない境遇の中で、俳優になるために頑張っている彼が、スターになれるようにと彼女は願います。そして、「魔法の万年筆」で、その最後の願いを紙に書いてしまいます。とうとう彼女は、自分のための願い事をひとつもしませんでした。強いて言えば最初のケーキぐらいなものです。

その願い事を書いた後、彼女はレストランを出ていきますが、するとすぐに、その俳優志望の男性が走って来て、路上で彼女に「テレビドラマの準主役に抜擢された」ことを告げます。一か月前に受けたオーディションなのに、連絡もなかったから、もう無理だと思っていたら、今しがた電話があって準主役になったと聞かされて、彼は大喜びでした。そのことを真っ先に彼女に伝えたくて走ってきたというのです。彼女は自分のことのように喜び、最後の願いに彼の成功を書いたことを、心から良かったと思いました。その反面、彼が成功したらスターになって自分には遠い存在になると思ったら寂しい気持ちにもなりました。

すると彼から「結婚してください」と、唐突に求婚されます。今までずっと好きだったけれど、ちゃんとした仕事もない役者だったから、幸せにすることができないと思って言えなかった。けれども、大役をもらったから今、それが言えるということでした。

人の幸せを願ったら、自分も結婚できて幸せになれた。「魔法の万年筆」をくれたのは、物乞いのおじいさんのかっこうをした、サンタクロースだったのかな？というような物語です。自分のためではなく、人の幸せのためにお願いと、自分にも幸せが返ってくるというような、ある意味「情けは人のためならず、情けは自分のためにある」ということを論すようなお話しでした。とても単純なお話しですが、自分に何もなくても、人の幸せを願えるという心の美しさに感動します。

クリスマスとは実は、そのことを考える日であると思います。当然クリスマスは、神のひとり子であるイエス・キリストの誕生日です。神はこの世の罪人を救うために天からイエス・キリストという救い主を贈りました。その日がクリスマスです。ひとりのみ子を与えるほど、神は人間を愛しているというメッセージが、クリスマスの出来事です。このプレゼントを受けるだけではなく、今度は何らかの形で他の人々に何かできないだろうか、考える日でもあると思います。そのような意味で、クリスマスが、みなさんにとって温かくて優しい気持ちをプレゼントできる日になればと願っています。メリークリスマス！

このメッセージは2014年12月24日、桃山学院高校で話された説教を『セクイミニメ』用に手直したものです。

## ○ キリスト教講演会 ○

10月20日金曜日、桜井淑敏氏による講演会が本学チャペルで開催されました。社会学部の篠原准教授が現代社会論の受講生を参加させてくださいました。以下に、コメントと受講生の感想を掲載させていただきます。

### 「桜井淑敏氏の講演会を受講させて」

社会学部 准教授 篠原 千佳

海外で又は国内でも、様々な国で生まれ育った同僚と共に仕事に取り組み、そして成功させることが求められる時代になった。「世界の市民」としての役割と社会貢献の可能性を考える機会の多い桃山学院大学の学生にも共感できる形で、この度、桜井淑敏さんにグローバルな成功体験についてお話しいただいた。



講演会后、私の担当する現代社会論の受講生80名が提出した講演に対する感想の一部を、以下に掲載したい。

#### 【経営学部4回生 杉山 貴大】

この講演会でお話を聞いて、桜井淑敏氏は自分の信念を貫き、人生を楽しむ独創的なチャレンジャーという印象を持った。大学時代、彼女の為にテスト期間を捨ててまで追いかけるというお話があったが、私にはそこまでの勇氣もなければ、そんな恋愛もしたことがない。しかし、それこそ現代社会論の講義で勉強した、恋愛経験が少ない人ほど結婚願望がなく、恋愛に対して偏見を持っている人が増えているという話に繋がっているのではないかと私は来年から社会に出る立場なので、桜井氏のように、恋愛のことだけでなく、色々なことにチャレンジしてみようと考え直すことができた。

また、桜井氏の経歴やエピソードから、世界に対しての姿勢も学んだ。私は来年の4月からIT系の企業に就職するが、取引先の相手が海外の企業もあるので、桜井氏のようにはいかないかもしれないが、同じように何事にもチャレンジする姿勢を見せていきたい。行動力こそが、この先、「世界の市民」としてグローバル化の加速するこの世の中に対応していく、一つの秘訣ではないか。

私もこれから1人の社会人として、生き抜いていかなければならない。この講演で勇気をいただいた。残り少ない時間を有効に使い、社会に出たときの為に、現代社会のことをさらに勉強し、挑戦しつづける信念を持ちたい。

### 【経営学部3回生 松浦 菜津子】

今回の桜井淑敏氏の講演を聞いて、実際に成功した人の経験談を聞くことができ非常に為になった。大学時代、遊びながら過ごしていたが、就職面接で、自分の愛した人について語って、周りの友達は落ちたのに桜井氏のみ合格したようだ。そこから努力して成功へと繋がった。何か認めてもらうには、実際に証明してみせることが大切である。桜井氏は、自ら共に働いている外国人の前で自分の成果を示し、認められたのだ。やはり説明するだけでは伝わらない部分も出てくるし、実際に目で見てもらうことは、一番伝わるのだと改めて思った。

そして、一人一人の機能だけでなく、個性を生かすことがマネジメントにおいて必要である。機能だけでは成果は伸びない。せっかく持っている個性を引き出して仕事に活かさねば、成功にも届かないかもしれない。加えて、何事も諦めずに継続して努力し、挑戦し続けることも大切である。大学時代は自分のしたいように過ごしていたのに、就職してこのような成功をするのは、やはり努力の成果だと思った。マネジメントにおいても、努力は必要だと思う。この講演は、思っていた以上に興味が湧いて聞き入れることができた、とても良い機会だった。



### 【 経済学部 3 回生 アルカラス サムエル 】

桜井淑敏さんの顔を見たときに、「この人は人生経験をいっぱい背中に抱えている人だ」と思い、とても興味がわいた。そして話を聞くと、その通りで、いろんな経験をしていた。桜井さんの印象を言うと、怖がらずに人生に与えられる状況に対してボンボン突っ込んでいく人に見えた。一般の人なら絶対にしないことを彼は山ほどやってきて、その結果として彼の「今」があることも明らかである。

外国人の僕として、日本人のほとんどみんなは安全を常に気にしていて、その怖さにとらわれて、人生の半分しか生きていないように見える。その「安全な人生」を生きるのが正しいと思っているからだと思っている。だが、決して人生はそのようなものではないと信じているのだ。人生は常に動いていて、僕らは止めることもできないし、それを受け入れて、桜井さんのように勝負をするのが人生だ。それが正しい人生の生き方なのではないか。

「自分が自分であるべき」人の目を気にしすぎずに自分の人生に真面目に受け止めて、自分の目標がどれだけ無理に見えてもそれに向かって全力で頑張っていくことが、桜井さんの人生でとても重要な点であった。これは明らかに社会に押しつぶされていない、人間のあるべき姿だ。人間は自由なのに、周りの目や意見を気にして、その自由がなくなっていく。これは社会が決めた「裏の常識」であって、必ず正しいとは言えない。だから桜井さんのように、みんなと違う方向に向かって頑張りたいのであれば、それはそれでよいのだ、僕はそういう風に理解した。生き抜くための秘訣とは、何事にも全力でぶつかって、うまくいかない人生の出来事の前に折れない心である。これからは、僕も全力で人生の出来事に面と向かってぶつかって行きたい。

### 【 国際教養学部 3 回生 藤原 茉央 】

私は初めてキリスト教講演会に参加した。授業で配布されたプリントを見て勝手に桜井淑敏氏はすごく威圧感のある方だと思っていたが、実際に見てみると全然違って、すごく優しいような普通の方だった。感銘を受けたエピソードは、就職活動の最終面接で面接官に「学生時代命懸けでしたことは何ですか」の返答に「命懸けで人を愛した」と答え、面接に受かったという話だ。私にはこのような回答は一切浮かばなかった。人と違ったことを言い、面接官に衝撃を与えた。このようなところが桜井氏独自の魅力なのだろう。

桜井氏のように世界の市民として世界で成功する秘訣として、私は4つのことに共感した。1つ目は「情報を共有化」だ。社会で生きるには情報はつきものだ。その情報を個人化するのではなく、周りとは共有することで新たな情報も入り、様々な視点で物事をみることができる。2つ目は「理想と真実を追求する」ことだ。社会には嘘と真実をしっかりと見分けないと、成功することも失敗になることだってある。理想と真実は違うことが多いが、理想を追求するこ

とによって、より理想に近い真実を見つけることができる。3つ目は「アイデアを出す」こと。この秘訣として「1, 歴史に学ぶ、2, 生物で考える」と桜井氏は言っていた。歴史も生物も私たちが生きているよりも長く、生きている。そこから見習えることがたくさんあるという。これからアイデアを出していく機会が増えるだろうから、この秘訣を活かしていきたい。4つ目は「勇気が大事」ということ。これが一番重要だと思った。桜井氏の話でHONDAは社会的課題を乗り越え成功した、と言っていた。これはHONDAの方々の勇気のおかげだと思う。難しい課題を乗り越えるためには、それ相応の勇気が必要である。それともうひとつ、「自分が迷ったときには難しく困難な道をすすんでみる」この言葉には、大変感心した。人はどうしても、簡単で無難な道をすすみたくなる。傷つくこと、失敗を恐れているからだ。そこで桜井氏は、それを堪えて困難な方を選んでみると言っていた。私の考えもこれを聴いて変わった。困難な道にすすむ勇気があれば、必ず成功に導いてくれる、結果がよかったらプロセスは何だっていい、と教えてくださった。

今回学んだことを活かして、私も世界で成功している市民のひとりになりたい。

### 【社会学部3回生 定野 夏歩】

桜井淑敏氏は、とても熱い人間である印象を受けた。学生時代は、好き勝手していたとおっしゃっていたが、好きなことはとことん追求する・一生懸命向き合うといったところは、現在までの桜井氏につながっていると感じた。「夢への挑戦・不屈の魂」といった言葉からも、桜井氏がこれまでたくさんの困難におち当たってきて、その困難に怖気付くことなく、ストイックに立ち向かってきたことが分かる。そこで得た知識や自信が現在の桜井氏を形成していたのだろう。

今回の講演会を聞いて、現代社会論と関連していると感じたことは、アイデアは歴史や生物、技術から学ぶといった点である。数々の社会学者は、過去の社会学者の考えをもとに、自分たちの考えを述べてきた。情報の共有化の大切さといった点でも、授業でも行っているグループワークに通ずるものがある。1つのものをみんなで作り上げるには、情報の共有化というものは極めて重要である。

世界市民として生き抜く秘訣は、チャレンジ精神を持って、理想に向かってひたすら目指すことであり、そのためには真実をストイックに追求することである。私たちは、目の前に障害が生じると、早々に見切りをつけてあきらめてしまう。それでは、成功は遠くなくなってしまふ。成長するためには、自ら課題を見つけ、より厳しい世界に身を投じることだと桜井氏は述べていた。成功するためには、中途半端は捨て常に高みに目指して、日々努力しなければならない。

今回の講演会を聞いて、あきらめないことが最大の挑戦であると感じた。いくら好きなことでも、ここまでストイックに理想を追いかけるのは生半可な気持ちではやっていけない。



負け癖を捨て、一步を踏み出す勇気を持つことで世界は大きく変わる。この講演会を機に、もっと自分から成功を引き寄せる努力をしたい。

### 【社会学部 3回生 溝内 名津美】

桜井淑敏さんは、ご自身でも「何か興味のあることにはとことんやる」とおっしゃっていたが、それこそが‘不屈の魂’という格言にもつながっている。はじめは、排気ガスの軽減という社会的な課題の解決のために様々な研究・開発などに取り組んできた桜井さんであった。だが、その後は新たな課題を探ることが困難で現実を知ることで課題が見え、それを解決するためにまた努力をしてきたということであった。「理想を追い求めつづけ、できることならば何でもやる」という精神こそが‘夢への挑戦’である。

また、世界で人を動かす方法について「事実をもって実証する」ことで人はついてくるというお話があった。これは、桜井さんご自身の海外での経験による学びであり、これからのグローバル化社会で多様な人々を動かすために覚えておくべきことだ。言葉も文化も異なる人々を動かすには、事実をもって人々を説得する必要がある。

そして、後半の文化資本主義の話も興味深かった。文化資本というのは、夢のことである。現在の資本主義のようなお金のために働くのはもう終わり、これからは「夢、自分のやりたいことをしていくべきだ」というお話には私も共感した。お金の重きをおくだけでは、すぐに行き詰ってしまう。しかし、夢や理想を追求し続けることが人々の生き甲斐にもなるしよりよい社会づくりにつながるのではないか。

### 【社会学部 3回生 周 倩嫻】

桜井淑敏さんの講演会を聞いたあと、自分の人生を考えてみた。夢、目標、自分の弱みと強み…。一番気になることは、桜井淑敏さんの勇気と創造力だ。本田技研工業で世界初の無公害エンジン CVCC の開発に成功し、その後、ホンダ F1 総監督として 2 年連続世界チャンピオンを獲得するなど、常に世界への挑戦を続けてきた桜井淑敏さん。それぞれの経験を知った後、桜井淑敏さんは誰からも尊敬される人なのだと思った。また、当時ロータスチームにいたアイルトン・セナがホンダのエンジンを熱望したとき、その熱い思いを語り合ったことから、あのアイルトン・セナが心を許した数少ない友人の一人となったそうだ。

学校時代の桜井淑敏さんは歴史が好きで、わからないことはよく人に聞く。休みのとき、バイトをやって、運転免許をとって、充実した学生生活だと思った。現在は「文化資本主義」の創出という目標を掲げられている。つまり、人を動かそうと思ったら、情熱とか夢を共有すればいい。それが大事なことだ。

「世界一になりたい」というのは、桜井淑敏さんがずっと思っていることで、その目標も、彼が人生で頑張る源動力になった。「お金のため」「一番になるため」だけではどこかで必ず

頭打ちになる。「世の中のため」という考え方があるのとないのとでは、あるところから結果に大きな違いが生じるのだ。夢はどうやって実現するのか。小さい夢にも立派な夢にも、「挑戦への勇気」と「続けること」が大切だ。

### 【社会学部2回生 金知秀】

桜井淑敏さんの話で最も印象深い話は「10代でやり続けないと20代でやり続けるわけがない。」と「遠い昔に習っていたことをもう一度学ぶ。」ということだ。この言葉を聞いて、今まで大学入って色んな勉強しようと思いつつも友達と遊んでばかりでだらだらしている自分が恥ずかしいと思ひ、大学生活の折り目の今、気を引き締めてもう一度頑張ろうと思えたいいスパイスになった。

また、「自分が大変だと思ふ道に進むことが一番いい。」や「結果がよければいい。」も桜井さんの過去の経験から出たようなお言葉だ。きっと桜井さんも「社会に出てうまくいかないこともたくさんあったけど、私たちの前あの頃はあんなこともあったよ」と笑いながら話せるように、努力されたのではないか。私もこの方のように努力できるだろうか心配の方が大きい。まずはやってみること、やるからには真剣に、辛くてもあきらめないことを心懸ける。

### 【社会学部1回生 中川未裕】

今回の講演会で講師をしていた桜井淑敏氏は、ホンダで車のエンジンの開発などをしていた他、ホンダF1チームの監督をしていた経験などがある方で、現在は世界を舞台に活躍されている方である。

私は、この講演会でいくつも印象に残る言葉を聞いた。それらは「挑戦し続けることや、努力をすれば何かに繋がること、自分の方向性に迷う時はあえて厳しい道に行くこと、現実と理想を追求すること」など様々であった。現代社会論の講義で、今は高学歴であってもいい仕事に就けないことや将来像が見えにくいことが話にあり、その時は「その通りだ」と感じていた。しかし桜井氏の言葉を聞き、「努力と挑戦を続け、諦めなければ成功する」とそんな風を感じた。桜井氏は、ホンダやF1に関わっていた時など、自身の経験を基に話をしていたので言葉には説得力があった。

この講演会を通して、私は「夢への挑戦・不屈の魂」という講演会タイトルの言葉を胸に、世界の市民として成功できるように少しでも努力していこうと思うことができたのである。そのためにも、桜井氏の言っていた「ネイティブな人と付き合い英語力を高め、人間的に自分を成長させる」ためにはどうすべきか、これから考えたい。

## 【国際教養学部1回生 南澤 柊】

桜井淑敏さんのお話を聴いて、私は共感できる部分が2つあった。1つ目は、前向きな性格であるところである。2つ目は、興味を持ったことはとことん集中し、追求するところである。桜井さんは、分野関係なく幅広い興味を持っている。かっこつけて生きるのではなく、ありのままの自分で、自分らしく生きることが大切だという。何かに一生懸命になることは、何にもならないことはなく、何かになる。たとえすぐに結果として出なかったとしても、そこで諦めるのではなく努力し続けるかがポイントだ。その過程は必ず自分の身になり、いつかどこかで役に立つのだと学んだ。

私は、桜井さんの「十代の頃、何かを一生懸命できなかった人は、二十代になってやろうと思ってもできない。」という言葉がとても胸に響いた。何事に関してもコツコツ努力し積み重ねることが、今もこれからも難しく大変なことだが、それ以上に大切なことである。がんばることを知らない人は社会にでたとき、大きな問題に直面することになるだろう。

桜井さんによれば、世界で成功する秘訣は事実をもって証明することだそうだ。例えば、英語力を高めるには、わからないことはノートに書き留め、理解できるまで相手に聞くことである。そうすることで、少しずつ英語力を高めたという。聞かなければわからないまま過ごすことになり、世の中のほとんどが待ち時間になるのである。有意義に過ごすためには、目標をつくるべきである。

ひとつ課題を乗り越えたら終わりではなく、新しい課題を見つけて常に挑戦する向上心を忘れてはならない。

「人間を機能としてみていたが、人間にはそれぞれ個性がある」という言葉を耳にしたとき、変わり続ける世の中で、人それぞれが持っている個性が十分に発揮できる社会になる日はくるのだろうかという疑問に思った。今日、人のアイデンティティーが多文化、断片化、分裂、流動化している。グローバル化の加速する世の中で、自分のもっていない価値観を否定するのではなく、まず受け入れようとする、次に互いを尊敬し合い、意見や考えを共有しようとする人が今以上に増えれば、自分らしい生き方を求め続け、自分らしい生き方を送ることができる社会になるのではないだろうか。これからの社会の変化に伴う制度改革や人同士の付き合い方の移行に注目したい。

この講演会を通して、私の知らない分野の話を知ることができ、学ぶことがたくさんあった。人として大切なことや人それぞれの考え方、生きていく上で必要なことを改めて考える良い機会であった。

先輩からの  
便り

## 「人の出会いに生かされる」

81E はら 原 とおる 徹

(現：学校法人桃山学院 経営企画部長兼財務部長)

30年前に桃山学院大学経済学部（桃山落語会）を卒業し、28年間の日本私立学校振興・共済事業団での東京生活後、ご縁があり2014年度より桃山学院でお世話になっています。学生時代は北野田の登美丘キャンパス、下宿は堺東（七道）で生活しましたので、この和泉キャンパスの桃山学院大学は全く別の大学のように感じました。その後、教職員方や学生達に接し、慣れてきますと昔の桃山学院大学を感じ、懐かしく思います。この度、「先輩からの便り」に寄稿する機会をいただきましたので、私のこれまでの印象深い出会いをご紹介します、何か皆さんの参考にでもなればと思います。

最初の重要な出会いは両親かと思いません。自身が親を選んだわけではありませんが、両親の影響は大変大きいかと思えます。両親は長崎県北部にある緑と高原の町、北松浦郡（現在の佐世保市）世知原町に住んでいました。この世知原町は炭鉱で繁栄し、最盛期には小学校1学年で10クラス以上の学校規模がありましたが、小学校3年生時に炭鉱が閉山すると人口は減少し、瞬く間に2クラスほどになりました。現在ではお茶と温泉と「真弓肉屋の揚げサンド」で有名ですので検索してみてください。

父は会社員、母は小学校教員という共働

きの長男として生まれ、6歳下の妹の4人家族でした。共働きですので小さいころから他人に預けられたり、家のカギを持たされたりとあまり楽しい記憶はありませんが、一人暮らしを始めた頃や自分が家族を持つようになってからは親の有難さを本当に感じました。今では両親とも他界しましたが本当に感謝しています。

次に仲間との出会いです。中学、高校ではバレーボール部に所属していました。決して強くはありませんでしたが、指導者や仲間にも恵まれ忍耐強く練習した記憶があります。特に同じ高校には他中学バレーボール部の知り合いも数名いましたのでお互いが意識をして頑張った思い出があります。

クラブに夢中になり高校卒業後は福岡県博多で浪人することになりました。当時、



落谷ゼミ写真

博多には水城学園と九州英数学館という大きな予備校があり、大通りから予備校までの通りは「親不孝通り」と言いい有名でした。私はバレーボール部の友人と九州英数学館の寮に入り予備校生活をする事になり、初めて家を出て寮生活を過ごす事になったのですが、これ以降母親を看取るまで親と一緒に過ごすことはありませんでした。

当時は親に負担をかけまいと自分なりに頑張りましたが受験はあまりうまくいきませんでした。予備校の先生の勧めでこの予備校で行われた地方試験を受験したのが桃山学院大学でした。当時の桃山学院大学は他大学よりも授業料が安く、あまり身内がない大阪にも興味がありましたので入学することにしました。

大学では同じ下宿の美術部の先輩から勧誘を受けましたが、絵は上手くありませんでしたので、その先輩が仲良かった落語研究会を勧められ入部することになりました。この桃山落語会には同期のタージンや後輩の太平かつみや桂米裕と頑張っていますが、諸先輩の多くもプロで活躍しています。

信じられないかもしれませんが、この桃山落語会は名前の通り普通の落研とは違い、笑いに厳しく、先輩・後輩の関係はまるで体育会、辛くて退部する者も多くいました。当時は関西の他大学にも笑いで負けることは無い程有名なクラブでした。桃山学院に転職し、OBの皆さんと再会することもできましたが、休部となっているこの桃山落語会の復活を熱望されていますので、興味ある方は是非ご連絡ください。後程、触れますがこのサークルで嫁とも知り合いました。



サークル仲間

就職活動もうまくいきませんでした。社会科の教職免許を取得後、中高教員採用試験が不合格となり、翌年度に再度、教員採用試験を受験するために1年間浪人することにしました。同時に商業科の免許を取得するために桃山の科目等履修生となり、小学校の免許を取得するために他大学の通信教育も受講しました。科目等履修生として大学に通っていた時に当時お世話になっていた大学職員（現在の大学統括部長）から東京にある文科省関係の特殊法人が職員募集をしていること教えてもらい、これがご縁で冒頭に話した28年間の東京生活を始めることとなります。

最後に家族との出会いです。先に話した通り嫁は大学の同窓生で同じクラブでした。大学卒業後、私の仕事が落ち着いた時に結婚しました。今では成人した二人の娘は元気に東京で仕事を頑張っており、そのため、嫁と娘たちは東京で暮らしています。彼女たちもいずれ家族を持つことになるかと思いますが、小さい頃とは違い、今は本当に家族を持つことができるか心配です。

人は生まれてから死ぬまでに多くの人と出会います。私自身もこれから多くの人達と出会うかと思いますが、これまでの感謝の気持ちを忘れずに一つひとつの出会いを大事にしていきたいと思っています。

# キリスト教センターからのお知らせ



## チャペルの行事に参加してみよう！

チャペルでは、年二回のキリスト教講演会と年5回のチャペル・コンサートを開催しています。講演会もコンサートも著名な方を招いていますので、参加しなければもったいない！感情の豊かな若い学生時代に、たくさんの素晴らしいお話しや心温まるような音楽など、いろんなものを吸収しましょう。



## チャペルに来よう！

チャペルでは学期間中の毎週、月曜日と金曜日に礼拝を行っています。朝の礼拝は8時50分から55分まで、昼の礼拝は12時40分から10分ほどです。(行事などで中止されることもあります)



## チャペルは誰でも大歓迎！

チャペルは、夏は冷房、冬は暖房の効いた心地良いスペースです。休憩や授業の合間など、静かに心を整えるのに最適な場所であるといえるでしょう。チャペルは皆さんのお越しを歓迎します。ただ、雑談・喫煙・飲食は御法度なので、ご注意ください。



## キリスト教センター集会室は利用可能です！

チャペルに隣接しているセンター集会室は、予約すれば使用できます。各種セミナーやゼミの集まり、サークルの活動やパーティーなどに利用できます。飲食可です。

## ～ 桃学大SCA(学生キリスト者会)からのお願いと感謝 ～

桃学大SCAは本学で唯一のキリスト教サークルで、大学創設から存在するという伝統があります。しかし、残念なことに今年度に入って休止状態になってしまいました。ミッション系大学ならではの様々なプログラムを知ってみたい人や活動してみたい人にとって、その足がかりとなるサークルだと思います。キリスト教サークルといっても、キリスト教徒でなくても入会できますので君もサークル会員になろう！SCA加入希望者は、チャプレンまでお申し出ください。チャプレン室はキリスト教センター内にあります。

さて、SCAのOG・OBの皆様のご支援を心から感謝いたします。活動のための口座は休止いたしますので、活動が再開されるまでどうぞお待ちください。

# 聖歌隊員大募集！！

## + 聖歌隊って？

- ◎ 桃学大カラーのガウンを着て、入学式や卒業式、そしてその他もろもろで合唱する団体です。



## + 聖歌隊に入ると何か良いことある？

- ◎ チャペルに所属している聖歌隊なので、部費や活動費などはありません。
- ◎ 部室はキリスト教センター内の広い部屋なので、教室からも近い。
- ◎ 練習は週に2～3回なので、アルバイトとのかけもちもOK!
- ◎ プロのボイストレーナーから指導を受けるので、メキメキ上達するかも。
- ◎ 部室はロッカー付き！自分専用の個人ロッカーが使えるよ。
- ◎ 聖歌隊や合唱の経験がなくても大歓迎。

ホームページの閲覧は、桃大の施設、キリスト教センターからログイン。

<http://www.andrew.ac.jp/ch-choir/index.html>

**桃学大チャペル附属聖歌隊で活躍しよう！！**

### ◇ 編集後記 ◇

「SEQUIMINI ME」第49号にご寄稿いただいた方々に心から感謝いたします。  
また、このチャペル・ニュースを通して、チャペルへの興味を持っていただければと願っております。(大学チャプレン 司祭 ヤコブ 松平 功)

「SEQUIMINI ME」桃山学院大学チャペル・ニュース第49号  
2015年12月発行  
発行所 桃山学院大学キリスト教センター  
〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号  
TEL 0725-54-3131

発行日：2015年12月1日



# キリスト教センター 新スタッフのご紹介



左は本学卒業生のタージンさんです。

和田早苗（わださなえ）です。本年3月1日付で本学キリスト教センター事務局に配属されました。パイプオルガンの音色や暖炉の温かさに包まれて仕事をさせて頂いています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

## 桃山学院大学キリスト教センター

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1番1号

TEL 0725-54-3131

FAX 0725-54-3210